

9月の予定

- 1日(木) 給食開始
- 2日(金) ステパノまつり
- 5日(月) 臨時理事会
- 7日(水) 内科検診
- 8日(木) 身体計測(小)
- 9日(金) 校内研修会
- 13日(火) 体験学習①(中) 15日(木) 身体計測(中)
- 15日(木) 身体計測(中)
- 16日(金) 創立記念礼拝、教務委員会
- 17日(土) 中郡総体(駅伝)
- 23日(金) 第二回学校説明会
- 27日(火) 中学校教科テスト(中) 29日 教職員協議会
- 30日(金) 時間割変更期間 10月8日



今月の聖句
『あなたがたは地の塩である。』
マタイによる福音書
第5章13節

自由研究・工作(小学校)



←小1 U I ←小4 Y E

夏の宿題〈家庭科〉

中1は朝食、中2は昼食、そして中3はお弁当をそれぞれ作りました。



←3年 Y K ⇒1年 H K



⇒3年 A T

◎今月の行事から

○ステパノまつり 9月2日(金)

今年は感染症対策を行い、小学生と中学生を分けて開催します。

① オープニング・フィナーレはオンライン配信

② 企画と活動場所は小学校・中学校エリアを分ける

③ 各企画で、密にならないように人数制限を行う

④ アトラクション・発表・展示を行う(飲食は行わない)

まだ従来のステパノまつりのようなことができるわけではありませんが、来年に向けて雰囲気を感じ、経験を積んでもらいたいです。

○創立記念礼拝 9月16日(金)

創立記念日は9月19日(創設者である澤田美喜先生の誕生日)なのですが、今年は祝日にあたるため、金曜日に礼拝をお捧げします。平塚聖マリヤ教会の島田司祭に司式と説教をしていただきます。

礼拝後、旧職員の方が澤田先生との思い出をお話して下さいます。



『感恩報謝』

学校長 佐藤 紀明

25年前、立教小学校長であった小川学園長が聖ステパノ学園に着任されました。紺のスーツにお洒落なネクタイ、胸に赤いポケットチーフをされて、教職員も子ども達も、そのセンスの良さに驚きました。もっと驚いたのは、当時、児童・生徒・教職員全員で、チャペルで礼拝をしていましたが、初めてお話をされる時に突然、♪「朝日受けて〜小川流れ〜野を潤しく草木を生かす〜喜び歌おう〜神を称えて〜日ごとに励もう〜愛の技〜」と聖歌を歌い、歌われた後、「この歌詞にある小川です。」と自己紹介して子ども達がとても喜んだことを覚えていません。小川学園長が来られて、学園は少しずつ学校らしくなってきました。キリスト教学校教育同盟に加盟してキリスト教学校の一員として歩み始め、同じ聖公会関係学校の立教小学校・立教女学院小学校と同じ『礼拝式文』を使用し、手狭だったチャペルは拡張してペンキを塗り、見違えるほど綺麗になりました。外礼拝用に、グラウンドの山側に十字架が設置されました。学園内の樹木は伐採され明るく風通しが良くなり、グラウンドの外壁を全てネットに変え、外からも学園がよく見えるようになりました。古い校舎でしたが、教室、廊下の床板を張替え内装を全てリフォームして明るい教室になりました。学園全体が、本当に綺麗になりました。

学園は、二学期制から三学期制になり、T T授業、二名担任、教科担任制、小・中保健室、養護教諭二名体制、教頭職、教務主任職を置き、教職員の研修会参加の推奨、学校説明会の充実、教育実習生受け入れ、入学考査、卒業礼拝式を小・中とも春分の日、教職員の夏の奉仕活動であるサービスデーなど、学園のカリキュラムのほとんどが、小川学園長により整いました。この『ステパノだより』もそのうちの一つです。学園創立50周年を機に、学園総合発展計画が始まりました。海の見えるホール落成、森の中の教室竣工、パイプオルガン設置、小学校棟・体育館棟竣工など、学園はこれ以上なく綺麗になりました。小川学園長の「常に最善の努力をして、子ども達の生活環境を良くすること、子ども達自身が置かれている環境に劣等感を持つことなく、ステパノで学ぶことに感謝して誇りを持つような教育を目指さない」とね。」という言葉通り、常に『子どもファースト』で環境整備が進みました。楽しく通い、学園での日々の生活が幸せに繋がる願いを感じました。学級経営で子どもへの対応に悩んでいる時、小川学園長に相談したことがあります。すると、「神様はあの子を愛しておられるんだよ。」と言われて、ハツとしました。その時以来、私の子どもへの接し方、対応が大きく変わりました。子ども達が、一番身近に感じる大人の教師が挨拶、服装、言葉遣いをきちんとする。口だけでなく山本五十六の『やって見せ』の言葉通りに行動する大切さをよく助言して頂きました。

行幸啓で上皇皇后陛下がご来校された際、小川学園長が一人で学園をご案内されました。上皇皇后陛下が、私の授業を參觀された時、極度の緊張で頭が真っ白になってしまった私と違って、冷静に任務を全うされていました。小川学園長に心臓が止まるほど驚かされたことは、朝礼で「明日から一か月、佐藤先生に横須賀学院小学校に留学してもらいます。」と突然言われました。また、年度末の職員会議で「来年、佐藤先生が事務長に就任します。」と衝撃的な発表があり、心臓も鍛えられました。小一から中三までの学級担任、小中教務主任、小中教頭、事務長、副校長と本当にいろいろな役割を経験させて頂きました。不慣れで大変な思いもしましたが、様々な角度から学園を見ることができたことは、本当に大きな財産です。25年間、誰よりもお話をさせて頂きました。誰よりも叱咤激励を受けたと思います。勝手なことばかり言って、申し訳ありませんでした。常に先を見据えて、子ども達、教職員、保護者のためにどうあるべきか、一番近くで学ばせて頂きました。学園に対しての愛を感じました。子ども達への愛情、教育観、環境整備等、全力を注ぐ姿に、私もそうなりたいと思いました。受洗の時、小川学園長と同じ洗礼名『ヨハネ』を希望して、同じように生きたいと思いました。伝統を引き継ぎ、時代に合った新しいことを取り入れ、教職員全員で聖ステパノ学園を更により良く発展させていくことをお約束します。永年のご功労に敬意を表し、感謝申し上げます。

立派な教育者

事務長 佐藤 雅美

学園長への手紙

小学校教務副主任 赤田 祐章

小川先生へ

教諭 飯田 裕美

小川学園長と初めてお会いしたのは、もう考えてみると十九年前になります。面接をするために校長室を訪れました。こんなことを言ってしまうは大変に失礼な言い方かもしれませんが、第一印象は、「なんて品のあるかわいらしいおじいさまでしょう」と感じました。お会いしてから今までとても近くで一緒にお仕事ができたことは私にとってはとてもうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。小川学園長からはとてもたくさんのお話を学び、たくさんのお話を聞かされました。

その中でも大きかったのは、昔は感謝をすることが大事なことで頭ではわかっていても、なかなか意識できていませんでした。感謝について考えることができていないと自分の中でその重要性に気づく事ができていない場合があるということです。頭で思っても、意識はなかなかできていなかった私は以前に比べると感謝に対しての意識が大きく変わりました。

また、仕事は肩書きではなく、与えられた役割、仕事をどんな姿勢でやっているか、その心がけが大切で、思いを変えらるることによって環境が変えられることができ、自分の心がけを変えられることができる強さをもっていることが大事ということも学びました。

最後にひと言。小川学園長は、立派な教育者です。

小川先生の授業を初めて受けた小学校六年生の四月、その授業で「ノート作り」と「図書館」について大きな学びを得ました。

ノート作りをする時、教科書には必要最小限のことしか書かれていないことに気づきました。家にある百科事典でも、概要しか書かれていません。そこで図書館の図書です。もともと本を読むことが大好きだった私は、授業で学んだ人物に関連する書籍を読み、知識を深めていきました。当時は写真を貼ることが大変なことだったので、人物などの模写を繰り返していました。自分が好きなことをしているのに、親には「勉強」しています。」と言える状況が何よりも嬉しかったです。

作ったノートは、小川先生が評価をしてくださり、☆の数をごんごん増やしてくださいました。最高七個いただいた記憶があります。小さなことですが、この星を増やすために、次はどんなことをすればよいのか、考えることが楽しかったことを覚えていきます。

今の私が在るのは、小川先生に出会うことができたからです。何歳になっても頼りない私ですが、歩みの遅い、少しずつの成長を見守ってください、感謝しかありません。学園長の教えてくださった、調べることの楽しさ、知への探求を、ステパノの子どもたちに焦ることなく根気強く伝えていきたいと考えています。

「水野（旧姓）さんは自分を信じているんだね。」

当時、旧職員室の校長室で小川先生と共に、事務の方々、非常勤の先生たちとお昼を食べながらお話ししていた時のことです。当時ステパノ学園に奉職したばかりの若輩者の私は、悩みや迷い、手探りな日々を過ごし、自分を信じて生きるなど頭にも全くなかったため、「いえ、自分を信じるなど私にはとても難しいことです。」と答えたことを今でも鮮明に覚えています。

ステパノでの生活の中、多くの出会いに恵まれ、そして非常勤時代から小川先生には多くの機会を受けて頂き、「こんなことをやってみよう」という提案をほぼ全て叶えて下さりました。様々な経験をさせて頂く中で、あの時から少しずつですが、自分を信じる事ができるようになってきたように思います。

先日も、小川先生とお話をする機会があり、その時にも、「あなたはあなたの信念を貫きなさい。」とのお言葉を頂きました。

不安や迷いがある時には、神様を信じ、そして小川先生のお言葉を思い出し、これからもステパノ学園のため、子どもたちのために私のできることを精一杯頑張っていきたいと思っております。

本当にありがとうございます。

「継承」

教諭 石川 瑠一

私が学園長に初めてお会いしたのは、まだ大学に在学中だった秋のことでした。ご縁を頂き本学園に足を踏み入れた時自然の豊かさに目を見張ったことを覚えています。教職員の方々の雰囲気というものが環境に映し出されているようでした。中でも学園長はこの聖ステパノ学園の象徴なのだ、と新参者ながらに感じました。学園長から出る朗らかさ、温かさの影響もあり、この学園で働かせていただきたいと強く感じました。

朝礼、子どもたちへのお話など学園長の想いを拝聴する機会は多く存在しましたが、私の中で強く印象に残っているのは便りに掲載された学園長のページの一節でした。「人の一生は、重荷を負うて遠き道を行くがごとし、不自由が常と思えば不足なし」これは徳川家康の遺訓ですが、昔の職員室にかかっていたそうです。現在、技術の発展は凄まじく日々生活は便利になっていきます。その分至らないところに目が行きがちですが、あくまでも不便なのが常なのです。この言葉を見た時、目から鱗が落ちました。時代は移り変わっていきますが、学園長初め、多くの教職員の方が作ってきたこの学園の雰囲気というものを尊重しつつ、新しい風を吹かせていくことを誓います。長い間お疲れさまでした。

出会いに感謝

教諭 伊藤 有紀

先生とお会いしたのは、私が中国から日本に帰国して、半年が経とうとしていた時でした。もう一度中国に戻って仕事をするか、それとも日本に留まるか悩んでいた時に、聖ステパノ学園の存在を知りました。自分が夢見ていたような環境との出会いに、思わず胸が高鳴ったことを覚えています。

また、より一層この学園に惹かれたのは、小川先生の魅力でもありました。初めてお会いした時、面接であるにも関わらず、心地良く感じていました。温かく、柔らかい物腰でお話してくださり、先生のお人柄と、豊富な経験からくる深みのある知見と知識に惹かれました。

ステパノ学園での勤めが始まってからは、日々忙しく、ゆっくり先生とお話ができませんでしたので、先生が退職されることを知った時は、とても悲しかったです。まだまだご指導頂きたいこと、お話ししたかったことがあります。敬愛する存在が離れてしまったことに、不安と喪失感を抱きましたが、ご縁あってこの学園を訪れ、先生と出会い、日本に留まることを選択し、それによって起こった出来事や出会えた人々は、私をより成長させてくれています。そのことへの感謝の気持ちをお忘れずに、今後も努めて参ります。またお会いできた時には、ぜひ海外での生活のお話をしましょう。

励まされた言葉

教諭 金阿彌 勉

聖ステパノ学園の存在を知り、ステパノまつりを見学した後、小川先生にお会いしたのが初めての出会いでした。

まつりで輝く子どもたちと、包み込む素晴らしい環境に惚れこみましたが、やはり背中を押してくださったのが、先生とお話しするうちに心が和み、豊かな気持ちになれたことでした。

その後奉職することとなり、自分なりの努力はするものの、なかなか思うように行かず悩む度ご相談に乗って頂きました。

『これは子どもたちにとって良いことだと思いついた時こそ、ゆっくり慎重に事を進めなさい』など、私の話を傾聴してくださった後、具体的にそうしてみようというご助言をしてくださいました。

その他、広い知識と豊かな経験に裏付けされたお話に心耕され、時間が経つのも忘れて話し込んでしまったこともありました。

その一つ一つが心の支えとなり、励まされながらここまで来ました。

直にお話しできる機会は減りますが、頂戴した言葉を大切に進んで参ります。

またお会いできる日を楽しみにしております。5年間、誠にありがとうございました。

履歴書

小学校教務主任 上戸 基夫

「あなたの履歴書、ちよつとおもしろいから学校にお話に来ませんか。」それが小川先生との最初の言葉でした。

奉職一年目に「先生達でハンドベルをやつてください。」と突然のお話があり、突然先生方と一緒にハンドベルを演奏したことは強烈な思い出ですが、その後、ハンドベル部を立ち上げる許可を頂き、現在に至る布石だったのかもしれない。

気が付けば、在職二十年弱になろうとしています。果たして、「おもしろい履歴書」の分、仕事ができていいのか、確認させて頂いたことはありませんが、今日まで全力でやってこられたのも小川先生の導きがあつてのことでした。

小川先生はいつもハンドベルを例えに学校のことを話されます。「ハンドベルはそのひとつひとつでは音楽を奏することができませんし、それぞれが違う音です。ですがその一つひとつが集まることで、素敵な音楽を奏することができるとです」と。小川先生が今まで築き上げてきたステパノ学園を素敵な学園にするのは、残された教員一人ひとりだと思えます。これからはその違う一人ひとりが集まり、素敵な学校になるよう、日々真摯に子ども達に向き合っていきたいと思えます。小川先生、今まで本当にありがとうございました。

人生、そして社会科の大先輩へ

教諭 栗原 詩津子

学園長先生が「ステパノで教員をやつてみようという気持ちは固まりましたか？」と声をかけて下さった内定をもらった日のことをつい昨日のように思い出します。

学園長先生は社会の先生で、同じく英国がお好きだったこともあり、授業での経験や海外の学校のことなど色々なお話など様々なお話しを沢山聞かせて頂きました。

学園長先生に聞かせて頂いたお話の中で特に思い出深いのは生徒からの「戦争の時のお話しを聞きたい」という提案から実現した授業で、生徒たちから集まった多種多様な質問に全て答えてくださったのが特に思い出深く、全生徒に真摯に向き合う姿勢に自然と背筋が伸びたのを覚えています。授業でのこの経験はこれからの教員人生の中で一生忘れられない、かけがえのない宝物です。

学園長先生のような真摯に生徒と向き合える教員となれるよう精進していきます。

最後に心残りを。学園長先生とはお話ししたいことがまだ沢山ありました。英国のお話しも、授業のことも、教育のお話しもしたかったです。私の尊敬する偉大な教育者であり、歴史の生き証人でもある学園長先生。退職された後も人生の先輩たる先生から学ぶ機会がどこかで手に入ることを、歴史を学ぶ社会科の教員の後輩として切に願います。

学園長への手紙

庶務 小出 初美

とても淋しい気持ちでいっぱいですが、いつも廊下などで会った時には、声をかけてくださり、お話ができる事がとてもうれしかったです。

自然豊かなステパノ学園に勤めて、しばらくした頃、「友への手紙」という本をいただき、どれも心に残っている中から、特に印象深い学びがありました。

『自分の心を反省し、他人の心を察し、人を許し、思いやりの心を持つことが大切。』

日々の生活の中、助けられながら過ごしている事に感謝をしていく事が大切だと思っています。

先生の言葉が、いつも私のお手本になっています。

どうか、いつまでもお元気でいてください。先生のお幸せを心からお祈りしています。本当にありがとうございました。



小川 正夫 先生

教諭 根田 栄子

小川先生との出会いは、先生の前任校の校長室でした。大学生だった私は、新任の音楽教諭候補生として面接に伺ったのです。とても立派な校舎と校長室、そして校長先生の間でも威厳のあるご様子に、とても緊張してしまつたのを今でも覚えています。その時はご縁が無かったのですが、数年後に非常勤講師として奉職していたここ聖ステパノ学園で再会したのでした。

先生の就任後、専任教諭として採用いただき、小学校のクラス担任を経験することができました。また、子ども達の小さな歌声を気にされた先生の発案で『聖歌練習』の時間が設けられました。1回15分程度の僅かな時間ですが、毎週の繰り返しで、気付くと子ども達がとても元気な声で神様を賛美するようになっていました。先生は「根田さんが来てから子ども達の歌声が大きくなったよねえ。」とおっしゃっていました。が、ホール建築やパイプオルガン設置等、全て先生の強力なリーダーシップの賜物と心から感謝しております。今後は先生もお体を大切に、元氣にお過ごしください。そして時々子ども達の歌声を聞きにいらしてください！



小川先生へ

中学校教務副主任 咲間 直人

小川先生と初めてお会いしたのは、私が大学生の時に縁あって聖ステパノ学園を訪れた時でした。当時、私は将来について悩んでおり、態度もあまり良くなかったと思います。そんな私に対して、小川先生は深々と頭を下げて「ようこそいらつしやいました」と仰つて、丁寧に話をしてくださり、校内も案内していただきました。こんな若輩者に対しても、そのような姿勢で出迎えていただけたことに非常に衝撃と感銘を受けたのを今でも覚えています。

教員という仕事に関して、その責任の大きさを強く自覚していたため、当時、自分には無理な仕事だと思っていました。しかし、小川先生のお話を伺い、校内を見学している時に不思議と「この場所にいたい」と思う自分もいました。その後、別の職業に就職してもこの学校の存在が忘れられず、再び教員になるための勉強を始め、奉職する機会が与えられた時、これは神様から与えられた一つの使命だとも思いました。

神様のご計画の中に小川先生との出会いがあったからこそ、教員としての私があります。小川先生から学んだことを胸に、これからも子ども達、保護者の方々、同僚の教職員の方々と向き合つてまいります。出会った当初から今まで、本当にお世話になりました。

心から感謝申し上げます。

「学園長の教え」

教諭 櫻田 千亜紀

先生のことを考えない日はありません。先生は、聖ステパノ学園の御神木（親睦）のよき存在でした。先生の御言葉が走馬灯のように思い出されます。1学期終業礼拝後の子供たちに対し退任の挨拶が印象的でした。「協力」の協という字は「十」（十字架）に、三つの「力」と書きます。協＝十＋力＋力＋力。聖書に「三つよりの糸は、切れにくい。」（コヘ四・一二）とありますが、「協力」とは私たちが、十字架のキリストと共に「三つよりの糸」のごとく互いに「力」を合わせることで、強い力を生み出すものです。

先生との一番の思い出は「湯呑みは空っぽにしておく。」ということ。新人として着任して約二ヶ月が過ぎた頃、いろいろと悩んでいたとき、先生は「自分の思いや意見も大事ですが、お茶を入れてもらうときのようには、湯呑みがいっぱいだと、お茶は溢れるものです。それと同じで他者の話を聞くときにも、湯呑みを空っぽにする必要があるのではないのでしょうか。」と助言して下さいました。心が洗われたような気がしました。

世界一読まれている本は『聖書』ですが、学園長著『友への手紙』にも励まされました。先生が人生をかけて本校を築かれたこと、ご功績そして志に感謝と敬意を表します。

小川先生へ

非常勤講師 笹尾 和子

小川先生は、いつも優しい笑顔でご挨拶してくれまます。安心できます。先生はお友だちがたくさんいて（私の通っている）平塚教会にもいらつしやいます。東京の人と違っていたので平塚にも仲良しがいるって素敵だなと思っています。

前々任の牧師が牧師館を離れるので、読み終わった古本をご自由にお持ちくださいと提供してくれました。その中に『バルナードス伝記』が有りました。私が読み終わってから先生に「読んでみますか？」と軽くお勧めしました。先生は「バルナードスの事を扱っている本を探していた」とおっしゃって笑顔で受け取っていました。先生は本を読んで翻訳者に直接連絡を取って印刷の許可をもらってくださったのが本を読めるようになりました。短期間のうちに初めての人に会いに行ったり、計画と行動力がすごいなあと驚きました。

先生の近くにいると、楽しい事がいっぱいありました。私は先生がステパノを離れると聞いてとてもさびしいです。ですが、先生はのんびりできないタイプなので、わくわくが止まらないと思います。

先生ありがとうございます。
また、お会いしましょう。



すべてが輝いた二年間でした

教諭 佐々木 心

「神様はどの子も同じように愛しておられる、ということ覚えていてください。」

二年前教育実習生としてステパノに訪れていた私に小川先生は仰いました。子どもは皆、成長の引き出しを持っている事。急ぎ焦って指導するのではなく、子どもが最善の時に学ぶ瞬間を待つ事。子どもと共に驚き感動しながら授業をする事。心を育むには、心で育むという事。どれも小川先生が教えてくださった、今では私の大切な教育的価値観の一つ一つです。今、気づかされることは、これらの価値観のすべての源流が聖書の御言葉にあるという事です。「…しかし、成長させてくださるのは神です。」「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。」「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」「…人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」神様の不思議なお導きにより、小川先生を通して私にこの言葉が語られたことを感謝します。

小川先生の下で過ごすことができた二年間は私の目にあまりにも短く、とても寂しいです。しかし神様の御計画の中で、コロナ禍をはじめ様々な困難が降りかかるシーズンを、小川先生が招いてくださったステパノで実り多きものに出来たことこそが、神様の御業であるということを感じ感謝します。ありがとうございます。

良い先生に

教諭 澤邊 嵩介

この聖ステパノ学園には、教育実習のころを含めるとお世話になってから七年目になります。当時、ご指導ご鞭撻して頂いた先生方には頭が上がりません。もちろん、小川先生にも、教育実習中は勿論、在職中にも数多くのことを教えていただき、また、学ばせていただきました。その中でも、教育実習を終えた後に、教育実習日誌の中で賜ったコメントがとても印象に残っております。

「人氣のある先生よりも、

良い先生になってください。」

この言葉は、私が聖ステパノ学園で奉職する上でとても大事にしているものです。子ども達にとつて、本当に「良い」ことは何なのか、授業の中や生活の中で、ふとした時にこの言葉を思い出しています。子ども達の人氣を集める為だけのことをしていないか、子ども達の「良い」成長には何が大切なのか…一度立ち止まって考えると、見落としがち大切なことに気が付きます。

まだまだ未熟者なので、もっと小川先生からお教えたいただいた多くのことを思い出しながら、これからも奉職させていただこうと思えます。小川先生、長い間ステパノ学園を支えてくださりありがとうございます。これからもお体に気を付けてお過ごしください。

感謝いたします

養護教諭 清水 花葉

小川学園長、二十五年間にわたり聖ステパノ学園で児童・生徒・保護者・教職員のためにご尽力いただき、ありがとうございます。

小川学園長は、聖ステパノ学園総合発展計画により、学園の環境をますます充実させてくださいました。私が就職したときは学園総合発展計画も後半だったのかと思いますが、それでも学園内の自然環境が整備され、校舎が快適になっていく様子をいくつか見る事ができました。そのおかげで、子ども達や私達教職員がいかに良い環境で過ごしているか実感することができます。

そして最近、小川学園長が言われていた、環境は整えたのであとは教育をより充実してほしいという言葉が私の心にあります。素晴らしい環境に見合った教育や保健対応ができるよう、日々勉強です。

保健室の様々な業務がある中、環境を整える『環境整備』は基本の中の基本です。窓を開けて換気をする・部屋や器具を清潔に保つ・備品を使いやすい配置にする・子ども達が入りやすい明るい雰囲気の一部屋にしておく。誰でもできそうなことですが、根拠を持って、意識して環境を整えます。素敵に作っていたいただいた保健室、責任を持って素敵な空間を作り保っていききたいと思います。

学園長への手紙

総務 新庄 主来

神のなさる事はすべて時になんて美しい。

伝道者の書三章十一節

小川学園長は私の人生の転機となる重大な局面において、何度も救いの手を差し延べて下さいました。

一度目は地元の小学校に通っていた時。それまでは三人の姉たちと一緒に通学していましたが、いよいよ五年生からひとりとなる四年生の三学期。親は中学から聖ステパノ学園に入学させるつもりでいましたが、それより二年も早く、小五からの転校を強く勧めて下さったのは学園長でした。幼い私は気づいていませんでしたが、後に母からその頃通っていた公立の小学校ですでにいじめが始まっていたと聞かされました。

また、神学校卒業前にこの先何をする事が主の御心か導きを祈り求めていた時、学園長から学園のホールの仕事を手伝ってもらいたいの電話を頂き、自分では一時的な働きと気軽にお受けしたところはずも聖ステパノ学園の職員として採用されその頂いた恵みの大きさに驚いております。

このように、学園長には大変お世話になり言葉に尽くせない感謝の気持ちで一杯です。これから主の祝福の中、幸いな日々を過ごされますように心よりお祈り申し上げます。

学園長への手紙

教諭 高橋 謙二

この日がいつか訪れる事は頭の中で理解してはいましたが、正直とても切ない気持ちです。

小川先生が最初に仰った言葉を今でもよく憶えています。『私がステパノに来たのは、神様に導かれて・・・』まだ奉職して数年しかたつていない当時の私にはまったく、その深い意味(感)を掴むことはできませんでした。私自身この言葉の感を掴んだのは、小川先生とご一緒に日々の学校生活を送る中からでした。

小川先生の考えに反発をし、自分の考えをそのままぶつけたことも幾度となくありました。理に適っていないと思い我慢したこともありましたが、結果的には、小川先生の手の中で自分自身を見つめ直し、人として成長させてもらっていたというのをいつも感じていました。振り返ってみても不思議でしたが、そのようなことが度々あると、自分にとって、理に合わないことや、厳しく辛いことも、すべて『神様に導かれ、委ねられている』という生き方で自然に生活ができるようになりました。このように変わることができたのは、小川先生のお陰でした。また物理的にも精神的にも聖ステパノ学園をここまで創って頂いたことに感謝しております。今まで本当に有難うございました。

ありがとうございました。

中学校教頭 田中 圭史

二十五年間、聖ステパノ学園のため、そして子どもたちのために、ご尽力くださり感謝申し上げます。

勤め始めたころ、小川先生からうかがった言葉にハッとさせられたのを鮮明に思い出されます。

「神様は、この子も愛しておられるんだよ。」子どもたちの成長を神様はどのように望んでおられるのか——そのように考え接していくのがキリスト教学校なのだと思います。以後幾度となく繰り返され、心に残っている言葉です。

いろいろな場面で、小川先生からこの言葉をかけられてきました。その度に自分が照らされ、理想は明確なものになかなか届かず、反省させられます。目の前にいる子を神様の目を通して見ると、いうことはどうということなのだろうか、いつも問われています。

まだまだお尋ねしたいことはたくさんありますが、小川先生のすべてを包みこむ温かさ、時に厳しく決断していく強さを、少しでも自分のものにしていきたいと思えます。そして、子どもたちのために自分のできることを励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、神様の祝福が豊かにありますように、お祈り申し上げます。



小川先生へ

教諭 露崎 志苑

私は今年度の4月から聖ステパノ学園の仲間に加わりました。大変短い期間、半年に満たない期間ではありましたが、小川先生から学んだことはとても多く、本当に感謝しています。小川先生からの言葉はストンと心に入ってきて、生き生きと自分の心に残っています。

初めて小川先生にお会いしたのは、2月の採用面接のことでした。採用後にかけていただいた言葉がとても心に残っています。

「様々な価値観がある中で、自分の教育的価値観を見つけていくこと」、「自分の価値観が絶対的に正しいと思わないよう気を付けること」、「大変な経験、厳しい関わりの中で自分が高められていくということを忘れずに、謙虚にすること」。

小川先生から頂いた言葉を、このように自分なりに落とし込み、今も心に留めています。

小川先生から教えて頂いた「言葉をアップデートすること」、「言葉を磨くこと」は、ことばの教師である英語科教員として、そして子どもたちに大きな影響を与える意義ある仕事に携わる者としてこれからも大切にしていきたいと思えます。

短い期間でしたが、本当にありがとうございます。小川先生からの言葉と共に成長していきたいと思えます。

小川先生へ

養護教諭 土橋 久美子

私が聖ステパノ学園で勤務を始めることになったきっかけは、小川先生からのお電話でした。それ以前に、この学校で行われている教育について卒業生の保護者の方からうかがい、魅力を感じていた私は、その場でお返事をしました。家庭の事情で以前の勤務校を退職していた私は、もう養護教諭として勤務することはないだろうと思っていたので、再び学校に勤務できることになり、とてもうれしかったのです。

勤務が始まってからは、小川先生の子どもを思う気持ちの強さに触れては自分を省みることもありました。

「保健室が子どもにとって安心感を得られる場所にしておいてください」

複数の子どもたちが同時に入室したときや、自分に余裕がないとき、小川先生から度々言われたこの言葉を思い出して反芻します。

特に中学生ともなれば、卒業後を見据えた対応も必要です。厳しさをはらむこともあります。ですが、良くも悪くも目の前の子どもにとっては忘れられない言葉になるかもしれない。子どもたちの心に温かいものを残せるよう、先生からの教えを忘れずにいたいと思います。多くの大切なことを教えていただき、感謝しています。ありがとうございます。どうぞお体を大切にお過ごしください。

感謝

守衛・校務 飛田 裕二

小川先生には、感謝しかありません。何処の馬の骨か分からない私を、ステパノ学園に導いて下さったことが、私の人生を変えました。

胸を張って言える人生とは言えませんが、それなりに過ごしてきました。先の見えない暗黒のトンネルの中から、光りを照らしてもらい、まだ、人生も捨てたもんじゃ無いなと思えたことを嬉しく思います。小川先生のために、精一杯支えようと努力しました。いろんな御話をさせて頂きましたが、「人を傷つけることは自分に必ず返ってくる」、確かにそう思います。「偉い人ほど頭を垂れる」の言葉が好きです。人は偉くなると忘れてしまうものがある。プライド、地位、名誉にしがみつき、いつの間にか忘れ、今、その場所に居られるのは周りの人のおかげで、一人で成った訳では無く常に感謝を忘れずに、人を下に見ず、自分が一番下というのを忘れずに、これから過ごしたいと思います。私の中では、とても大きなそして偉大な先生でした。当分の間は居なくなる悲しみを堪えて過ごします。何かあれば、いつでもお助けに参ります。長い間、本当に御疲れ様でした。御身体を大切に、また御会い出来る日を楽しんでいます。私は残された人生をステパノ学園のために尽くします。「ありがとうございます」

学園長への手紙

教諭 難波 寛

初めて聖ステパノ学園に来て小川学園長とお話させて頂いた事を今でも心にとめ、悩み事がある度に思い出しています。私が学園に初めて訪れたのは学校が夏休みに入って間もないころでした。それまで学園の事を全く知らず、学園長より連絡を頂き「聖ステパノ学園」という名前を知りました。訪ねた時はずっと緊張していましたが、学園長から優しく言葉をかけて頂いて気持ちがとても落ち着きました。「自分の事を大切にできないと、人の事を大切にできないよね。」と優しい口調で話をしてくださいました。何事にもうまくいかず落胆していた私にとって、学園長のその言葉に勇気をもらいました。

また、「この学校では生徒と共に活動することを大切にしてもらいたい。」と聞きました。忙しい時期には一方的に伝える事が増えてしまいましたが、生徒と共に悩み・悲しみ・楽しむ事、共に考え、皆で共有することを大切に今も生活を送っています。

これからも小川学園長から頂いた言葉を大切に、これからも日々精進していききたいと思います。

今までお疲れ様でした。そして、ありがとうございます



「学園長への手紙」

教諭 西村 哲臣

朝礼で「聖ステパノ学園小学校の良い子の皆さんおはようございます。」小川校長先生の第一声に子どもたちは元気よく「おはようございます」とご挨拶をしていました。私自身も背筋がシャキッとします。校長先生のお話ししてくだる話題も多岐におよび、戦争の話や聖歌の中から大切な言葉をピックアップ、また、身近な自然現象や壮大な宇宙の話まで、本当に毎日の御講話の中で多くの学びと朝の活力を子どもたちと共に頂いてきました。

また、年度初めの入学式でも中学までの坂をお歩きになる姿に、失礼ながら驚いていました。いつも笑顔で子どもたちに向けてくださるまなざしや誕生日に胸にお花をつけてくださるお姿に真の教育者としてのオーラのようなものもいつも感じていました。校長先生に採用して頂き、まだまだ多くのことを教えていただきました。ただだけに年度途中のご退職が残念でなりません。私自身、今後も多くのご講話の一つ一つを思い出しながら、真の教育者として精進していききたいと思います。「人は石垣人は城」。海原に漕ぎ出した大きな船に乗った私は皆で同じ目的地に向かって協力しながら進んでいきたいと思えます。小川校長先生、長い間のお仕事ありがとうございます。

小川先生へ

中学校教務主任 二椏木 健太

小川先生と出会い、日々お仕事をさせて頂く中でたくさんのお話を学ばせて頂きました。その中で私たちによくお話して下さったことの一つに「小さな働きに大きな愛を」と仰っていたことが一番印象に残っています。

私がステパノに着任した際にステパノの先生方が子どもたち一人ひとりに対して、真剣に向き合い、愛を持って接する姿が印象的でした。また、授業や行事、学級経営など本場に細かいところも子どもたちのために先生方が力を尽くしていました。それは小川先生が日頃から大切にし、私たちに伝えて下さることが先生方や学校全体に浸透し、それを実践しているからだと感じました。

これから困難なことに直面することもあると思いますが、小川先生が私たちにかけかけて下さった言葉を思い返し、一歩ずつ前に進んでいきたいと思えます。

いつも未熟な私を温かく見守り、優しく背中を押してください、ありがとうございます。

お体に気をつけてお過ごしください。



小川先生のご退職に寄せて

非常勤講師 能條 貴大

小川正夫先生、この度はご退職おめでとうございます。

八年前、この聖ステパノ学園で小川先生にお会いした日のことを、今でも思い出すことが出来ます。緊張していた私に、教育の尊さ、学校の理念を、ゆったりとした語りで説いて下さいました。子どもたちに寄り添うことの大切さ、教育の心構えや軽い雑談まで、小川先生のお話は、若輩者の私にとって、全てが新鮮で驚きのあるものばかりで、説得力のある言葉にはいつも励まされました。

これからは、たくさん子どもたちに寄り添ってきた分も、お体を大切にお過ごしください。私も、小川先生のように、子どもたちに分け隔てなく明るい気持ちで寄り添うことができるよう、精進致します。

最後になりますが、小川先生にピアノの音色、演奏を褒めていただいた事は何よりの誇りです。この気持ちを糧に、演奏活動、音楽指導に励んで参ります。



感謝

小学校教頭 長谷川 誠子

子ども達と接する時の小川先生は、いつも優しい笑顔で温かな声掛けをされていました。子ども達が大好きで、一人ひとりを大切に思い、それぞれの成長を信じ、見守っている姿から、教師としての在り方を教えられました。

様々な場面で、小川先生が語って下さった言葉は、子ども達へのメッセージであっても、その時々私の心に響き、新たな視点を与えて下さいました。海のような大きな心でたくさんのことを受け止め、先を見据えた行動で学園は大きく発展してきました。

学園の環境も大きく整備され、子ども達にとっても、私達教職員にとっても過ごしやす素敵な自慢の学校となりました。

先生が常に話されていた「神様はどの子ども愛しておられるんだよ。」という言葉は、これからも忘れずに心に持ち続けていきたいと思えます。

「信仰・希望・愛」を常に私たちに伝え、示してくださいました小川先生。二十五年の長い間、私たちを導き、学園を支えていただき本当にありがとうございます。

これからも、神様の見守りのうちに健康が守られ、充実された日々を過ごされることを心から祈っております。



「学園長への手紙」

教諭 林 健太郎

「子どもたちのためにさ、よい先生になってよ。」聖ステパノ学園に勤めるようになってから小川先生に何度も仰って頂いた言葉です。文面だけだと伝わらないかもしれませんが、私にそう言われた時の先生の顔は、いつも穏やかで笑顔でした。三十年前、遠足の帰りに母のお迎えが遅くて、落ち込む私を励ましてくれた時と同じ笑顔です。

小川先生は、私が小学生だった時、校長先生でしたし、教員として採用して頂いた時も校長先生でした。「ひとつ、よろしくお願いします。」先生はそう仰った後も、笑顔を見せて下さいました。その時は、頑張らなくてとは心から思いました。

私はよく喋りますが、笑顔で話すのは元々苦手ですし、教員になりたての時は今より更にひどかったので、よく悩んでいました。そんな私にとって、先生の穏やかな笑顔はとても理想的です。

先生には、もっと多くのことを教えて頂きたかったですが、私も今まで以上に、よい先生になれるように精進していきます。

そして、先生に教えて頂いた色々な言葉を思い出しながら、先生のような笑顔でお話が出来るとなりたいと思っています。

小川先生、今まで本当にありがとうございました。

学園長への手紙

学校図書館司書 平野 朋子

小川正夫校長先生、長い間、聖ステパノ学園のために働きくださり、ありがとうございました。

私が初めて校長先生にお会いしたのは、私塾まきばがステパノの敷地内に移転した、息子が年長になった春でした。まきばの子ども達がチャペルに行く時には校長室の中を通らせていただき、校長先生が小学校校舎へいらつしやる時にはまきばの子ども達が遊んでいる廊下をお通りになっていました。まきばの賑やかな子ども達に、いつも優しく温かく声をかけて下さり、ありがとうございました。

それから二年後の娘が年中になった春に、ご縁をいただき聖ステパノ学園の図書室に司書として勤務させていただくことになりました。校長先生に校内を案内していただいた時に、中学校校舎までの道を歩きながら、いつか小中学生が共に使うことができる図書室を建てたいと話して下さいました。そして今、その時のお言葉通りに一つになった図書室でみんなが楽しい時を過ごしています。

小川校長先生が心を込めて育まれたこの聖ステパノ学園で、これからも一歩ずつ歩んでいきます。

ありがとうございました。



長い間お疲れ様でした。

庶務 松崎 由香

思い返してみると、初めて校長先生にお会いしたのは、もう9年前になります。チャペルの隣にあった校長室も懐かしく思い出します。先生と言えば私の一番は「レディーファースト」いつもお気遣い下さいます。そして学園、教職員、生徒をはじめ皆の事を常に考えられている校長先生。本当にスケジュール一杯の日々が沢山ありましたね。

これまでのご尽力や大切に思われていることが私にもよく伝わりました。

校舎・ホール・体育館等、素晴らしい環境の中で、一日を過ごせるステパノつ子は幸せです。もちろん私の居る職員室も広くなり快適です。振り返ると、窓から見えるマリゴールドも可愛らしく咲いていて、心が和みます。

これまでの経験や知識、たより等を通じてたくさんのお話、とても勉強になりました。

人を思いやること、感謝すること、自分を振り返ること、チャレンジすること、沢山の大切なことに改めて思うこともありました。

今まで長い間ありがとうございました。これから奥様との時間を大切に過ごされるとの事。第二章のスタート楽しみです。お体にお気を付けて。またお会いできる日を楽しみにしています。

小川先生へ

教諭 松村 はるか

「すべてのことは、時になつて美しい。」初めて小川先生にお会いした採用面接で答えた、私の好きな聖書箇所を、今も覚えていてくださって嬉しいです。

復職にあたっては、お声をかけていただき、また私の迷いと決心を受け止めてくださり、ありがとうございました。あの時、すっかり迷っていなければ、私は決心がつかず、今もあのまま、他の学校で教鞭をとっていたかもしれませぬ。そして今、小川先生のご退任にあたり、心にしみじみと浮かぶ寂しさや、小川先生への限りない感謝の思いも、あるいは、与えられなかったのかもしれない。

小川先生が退任されても、ここが、小川先生がこよなく愛したステパノ学園であることに変わりはありません。そして、小川先生はいっただって学園のために祈り続けてくださることを、誰もが知っているでしょう。

小川先生。いつの日か、小川先生を通して、二度にわたりこの学園に導かれたことを、私自身が「時になつて美しかった」と振り返る日が来るように、お祈りしてくださいね。

最後になりますが、父の愛を知らずに育った私に、父親の愛を伝えてくれたのは、小川先生でした。父は父なりに私を愛したと、今は思えます。ありがとうございました。

十年間ありがとうございました

陶芸部顧問 宮本 光春

小川学園長ご退任の知らせは、部活再開の待機中に頂きました。一報に脳裏に浮かんできたのが先生のお姿と印象深いお話でした。

四月一日の辞令交付のご挨拶で、お話が新任の先生に向けられた時、「皆さんは最先端の教育を受けてきました。その新しい風を学園に吹き起こして下さい」と。人を信じる大きな心と、深い愛からのお言葉に、当事者ではない私も奮い立つものを感じました。

最新のステパノだよりで、エリアパスに「優しい心を育む、ステパノ学園」とアナウンスされていることを知りました。学園の教育方針の下、教職員の皆さんが子どもたちに熱い眼差しを注ぎ、見守られている。学園に吹いている温かい風を私も感じています。部活でも純心さに胸打たれたり、思いやりの行為を目にしてきました。私の登校の関係で、直にお話させて頂く機会はありませんでしたが、ステパノだよりを通じて先生のお考えを学び、学園での道標としてきました。子どもたちの成長に手を添えられた思いはありますが、土と格闘した卒業生には、その器を手にした時、学園の思い出に陶芸部を重ねてもらえるかと思っています。私には語り尽くせぬ十年でした。有難うございました。先生のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

感謝

教諭 和田 好江

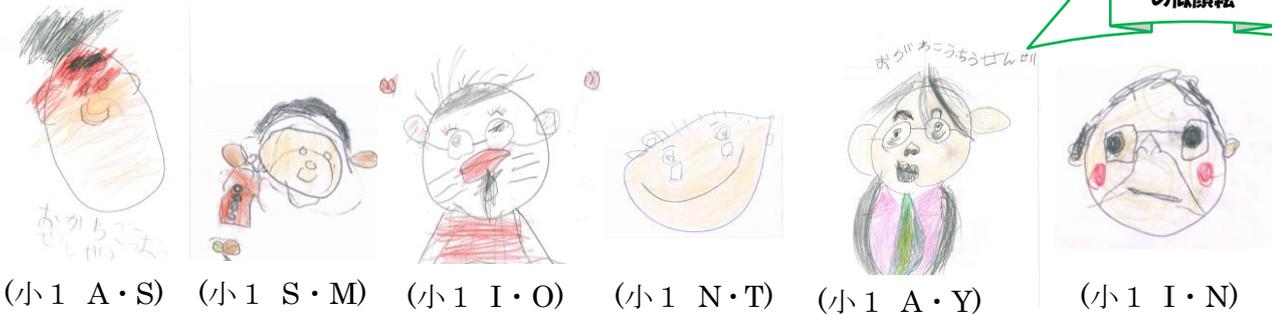
これまで、本当に長い間お世話になりました。回顧の想いを書かせていただきます。

小川先生は、自分が持っている資格や経験、内なる好奇心や特徴を活かそうと見出し、眠っていた力を掘り起こしてくださいました。まずは、小学校教員の担任としてほぼ全教科を担当していた私に、体育専科という役目を与えてくださったことです。私が教員を目指した切っ掛けは「体育の先生への憧れ」でしたので、小川先生は夢への背中を押してくださいました。ステパノの運動会への理解、校外行事のキャンプ活動や小学校のスケート教室、等々、自分が積極的に取り組んでいる教育活動について、限らない後押しと、多くのご助言をくださいました。ご相談させていただくと、「自信を持って、子ども達のためによろしく」、最後にはどれもこの言葉の上でした。小川先生のお陰で長く勤めさせていただけたと強く思っております。

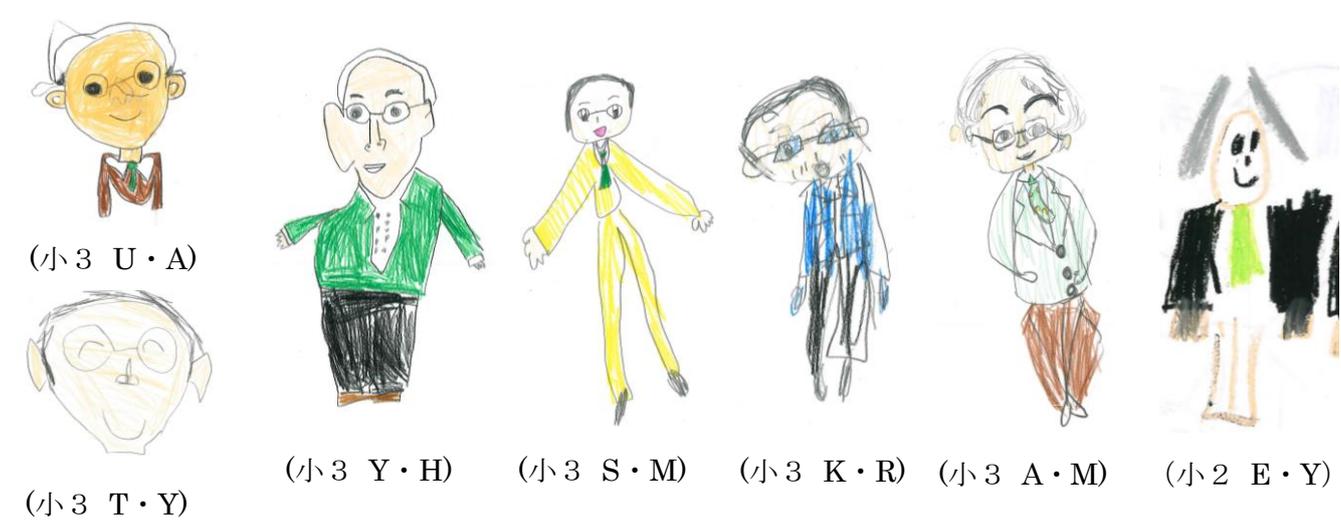
最後に、小川正夫先生、長い間、学園の発展へのご尽力に対し、大変感謝申し上げます。これからも、健康第一にお身体を大切になさってください。先生とご家族のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



子どもたちからの
似顔絵



子どもたちから小川先生へ



子どもたちからの
手紙

小川先生へ

小学校四年 O・T

いままでありがとうございました。
校長先生をやめても、元気にしていき
たい。

小川校長先生をやめてしまうのは、す
ごくさみしいです。

お体に気を付けてください。
ありがとうございました。

小川校長先生へ

小学校五年 F・K

私は、さいしょやめるとき、びっ
くりしました。すこしなみだが、で
ました。

私も、アコライトの一員としてが
んばっていたので、校長先生といっ
しよにやってみたいと思いました。

いつも、私が「おはようございま
す」といったら、「おはよう」とい
ってくれたので、すごくうれしか
ったです。だから私の心の中が
ピンクになりました。

小川校長先生は、すごくやさしく
て、勇気をくれました。その勇気は、
やさしくする勇気でした。わたしは、
小川校長先生のことをずっとわす
れません。ありがとうございました。

学園長先生へ

小学校六年 I・N

まず初めに学園長先生、長い間お仕事お疲れ様でした。

ぼくが初めて学園長先生に出会ったのは、幼稚園の年長の時の、学園長先生のお部屋で行った面談でした。その時、学園長先生はぼくを見て「かしこそうな子だね」とおっしゃったそうです。ぼくはあまり覚えていないのですが、そのことが嬉しくてよく話をしていたそうです。

学園長先生が入院した時、ぼくはとても心配でした。でも、きつと戻って来てくれると信じてお祈りしました。戻って来て下さった時は、みんなの前でははざかしいのでだまっていたんですが、本当に嬉しかったです。

コロナなど、まだまだ続きそうですが、どうかお体に気をつけて、元気でいてください。今まで、本当にありがとうございます。

小川正夫校長先生へ

中学一年 Y・Y

校長先生、今までお世話になりました。今までズームとかで校長先生の話をきくと、いい話だと思って聞いてました。今まで、おもしろい話をありがとうございます。

終業礼拝でご退職すると聞いて泣きました。なので、「あいつつに行かせてもらいました。緊張してサポートしてくれた長谷川先生、校

長室を開けてくださった校長先生、ありがとうございます。僕も校長先生のお言葉を受けて、その言葉を役に立たせたいと思います。校長先生、長い間ありがとうございます。

見てもらえてうれしかった物

中学二年 T・Y

長い間、ステパノ学園の校長先生をして頂き、ありがとうございます。私はステパノに来てから約八年間がたちました。この中で校長先生に見てもらえて一番うれしかった物があります。それは、小学校の卒業制作で作った「聖句を入れる額縁」です。クラスの皆でぶどうの絵を額縁となる木に描いたり、焼いて学校名を書いたりして、頑張って作りました。その作品を見てもらった時、『見てもらえて良かった！』と思いました。すごくうれしかったです。夏休み前、校長先生がお辞めになると聞いた時、おどろきと悲しさでいっぱいでした。ぜひまた学校にいらして下さい。その時は、中学校の卒業制作も皆でまた協力していいものを作るので、見て頂きたいです。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

校長先生に支えられて

中学三年 K・F

校長先生が退職されると言う話を聞いて私は驚いた。素直に悲しい気持ちだった。

校長先生はいつも聖ステパノ学園の児童・生徒たちのことを見守ってくれた。私がまだ小学生で、校長室がチャペルの隣にあった頃、チャペルでの礼拝が終わった後、いつも子どもたちにハイタッチをしてくれていた。子どもたちのことを考えて優しく接してくれて、愛情がよく伝わった。自分は反抗期だったからか、いつも素通りしていて、悲しまれていた。もつと素直に感謝していればよかったと後悔している。

校長先生がみんなのことを考えてくれたところは他にもあった。校舎の建て替えてでこぼこの坂道だった。そんな校舎の建て替えを実現してくれたのが校長先生だ。おかげで校舎も広くなり、新しい教室といった使いやすい環境で小学生たちが日々生活できている。体育館や職員室も建て替えられて前よりも広く使いやすくなり、旧職員室の跡地は原っぱになり、自然と親しめる空間となっている。中学生の生徒たちのことも温かく見守ってくれた。今までの中三の人たちに戦争の惨禍を教えて下さったり、他にも色々な面でいつも見守って下さっていることを感じていた。こうしてみんなのことを想ってくれたおかげで、今私たちがこの学校でそれぞれが楽しく生活できていると思う。

今まで私たちを支えて下さって本当にありがとうございます。





本校の保護者は皆、小川正夫学園長との初めての出会いの時間を心に留めているだろう。

「どのようなお子さんも歓迎します。しかし、互いに尊重し合わなくてはなりませんよ。」
柔和で穏やかな笑顔と厳かさをまとった佇まいの前に、紡ぎ出される言葉のひとつひとつが真直ぐに胸に響いたあの時、私は救われる思いで静かな詠嘆を感じるばかりでした。

コロナ禍以前、月毎の学園長と保護者との集いは、小さな日常の出来事から、学園全体の未来像まで、さまざまな想いを共有できる場でした。過去・現在・未来と多角的な視点とご経験から広げられる小川学園長のお話は、私たち保護者が日常生活をひと時離れて自らを省みる、本質と向き合う契機を与えられる大切な学びの時でもありました。

「愛とは、待つこと」。教育において最も大切なことは、待つことであると常に説いておられ、「子ども達は必ず成長」していくこと、「それぞれに良いところ、できること」があり、それらは「近づき過ぎても見えず、離れ過ぎては見失う。程よい距離で見守り、信じ、支えることが大切」なのだ一貫して伝え続けてくださいました。

また、「診断名は、その人の人格ではない」

とのご識見から、病や障害などの診断名や成績評価によって人間性を判断するのではなく、ひとりひとりの存在の尊さを心で受け止め、生き様を大切にしよう示して下さいました。そして、役割と責任を果たすことが、自分社会に役立つのだと自覚し、意欲と自尊感情の育みにもつながるとのお考えにより、学校行事を多く設けて全ての子どもに役割が与えられるよう、ご配慮くださいました。

教員として長く重ねて来られたご経験に加え、常に時代を先駆けた見地から本校の在り方を設計して下さったことは、「学び続ける者だけが教壇に立つことを許される」のだというご信念のもと、十年毎にご自身が生徒の立場となつて大学等に出向かれ、実践された学びによるものと敬服するばかりでした。その背中に倣う保護者も多く、私も再入学して学び直しの途上にあります。

ご高齢での心臓大手術の後も、単身赴任を続け私達の傍らに寄り添い続けて下さった日々は、「私」が優先される現代において、全ての時間、力、心を捧げ続けて最善を尽くす「仕える人」としての生きようを常に示してくださいました。大きな愛と知に包まれた子ども達と私たち保護者は、先生から授かり、受け継いだ未来につながる言葉と想いを有形無形の糧として、我が子と共に幸せの在り方を探り続けてまいります。親子共に幸福を感じられる学園生活へお導きくださいましたことに、心より深く感謝を申し上げます。

STEPHEN'S NEWS

○ベンチの贈呈式

井口一世理事を通して、群馬銀行さまより、中学校校舎の中庭に、ベンチを十脚ご寄贈頂き、贈呈式が執り行われました。ご寄贈賜りまして、心より御礼申し上げます。



《表彰》

- ◎第三十回中郡陸上競技選手権大会
- ・男子 800 m 第3位 大城 志優錬
- ◎令和四年度
- ・男子共通 800 m 第8位 大城 志優錬

神奈川県私立中学校陸上競技大会

【編集後記】

今月号は、二十五年間にわたり、聖ステパノ学園に奉職された小川先生へ、児童生徒、教職員による感謝の手紙、似顔絵を掲載した特別号とさせて頂きました。素晴らしい校舎や環境整備、そして小川先生の児童生徒、教職員への大きな愛情により、ステパノ学園は大きく変わりました。心より感謝申し上げます。小川先生本当にありがとうございます。(ひ)

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二二年九月十五日(木)発行 第268号